



大阪狭山市

令和4年度

全国学力・学習状況調査における
結果と分析の概要について

大阪狭山市教育委員会

はじめに

大阪狭山市教育委員会は、市の教育施策を推進するとともに、学校における指導方法の工夫改善を図るため、令和4年度全国学力・学習状況調査の結果と分析を公開します。

本調査は、新型コロナウイルス感染症の影響により、一昨年度は中止となりましたが、昨年度からは従来通りの実施となっております。今回の調査に取り組んだ児童生徒は、緊急事態宣言に伴う臨時休校や日常的なマスクの着用、「新しい生活様式」への対応等、これまでにない状況下での教育活動を経験してまいりました。今回の調査結果をもとに、コロナ禍における児童生徒の学びの成果や課題を明らかにするとともに、「第2期大阪狭山市教育振興基本計画」の基本理念「学びあい、つながりあい、未来に輝く人づくり」の実現に向け、教育活動の一層の充実に努めてまいりたいと考えております。

保護者・市民の皆さまには、今後も本市教育活動へのご理解とご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

令和4年度 全国学力・学習状況調査について

本調査は、文部科学省が、学校の設置管理者等の協力を得て実施するものです。

Ⅰ. 調査の概要

調査実施日 令和4年4月19日（火）

（Ⅰ）調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

（Ⅱ）調査対象

○小学校第6学年 ○中学校第3学年（原則として全児童生徒）

(3) 調査の内容

ア 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

国語、算数・数学、理科はそれぞれ次の①と②を一体的に出題。

①	②
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容 ・実生活において不可欠であり常に活用できようになっていることが望ましい知識・技能 など	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力 ・様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 など

イ 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

児童生徒に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 「朝食を毎日食べていますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」 など	指導方法に関する取組みや人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 「授業研究や事例研究など、実践的な研修を行っていますか」「教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組みを行っていますか」 など

(4) 令和4年4月19日に調査をした学校・児童生徒数

	対象学校数	参加学校数	参加児童・生徒数
大阪狭山市立小学校	7校	7校(100%)	513人
大阪狭山市立中学校	3校	3校(100%)	486人

2. 調査結果の取扱いについて

子どもたちの学力を高めるために、ご理解をお願いします。

- 本調査は、競争を目的とするものではなく、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析することを通して、これまでの教育活動の結果と課題を検証し、その改善を図ることをめざします。
- 本調査により測定できるのは、学力の一部であり、教育活動の一側面を示すものです。
- 本調査には、生活習慣や学校環境についての調査も含まれており、地域・家庭との一層の連携を深めることをめざします。

3. 分析の方法

(1) 教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)の分析について

- 結果や課題の根拠を分かりやすくするために数値やグラフを用いて示しています。
- 国語、算数・数学、理科について、問題に見られる成果と課題を正答率や無解答率とともに示しています。
- 今後の指導方法の工夫などについて、質問紙調査との関係で示しています。

(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査について

本調査結果から、本市の児童生徒の状況のうち、成果と課題が顕著と思われる内容を紹介しております。

また、質問紙調査の回答状況と、国語、算数・数学、理科の平均正答率の「クロス集計」の結果から、関連が深いと思われる項目についても取り扱っております。

生活習慣や学習環境は、学力と密接な関係があるため、学力の向上を図るためには学校と家庭・地域が連携して状況の改善に取り組むことが必要と考えています。

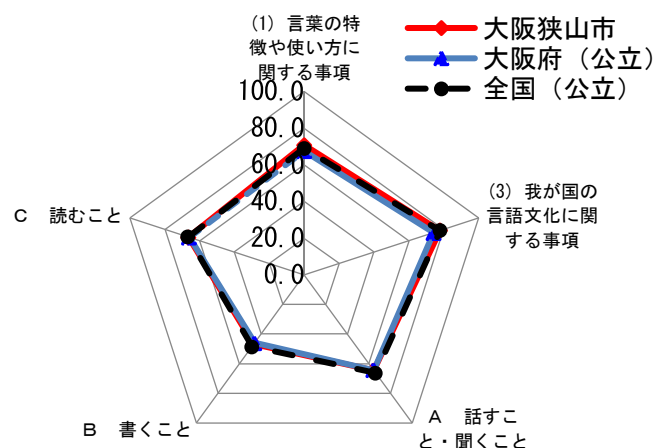
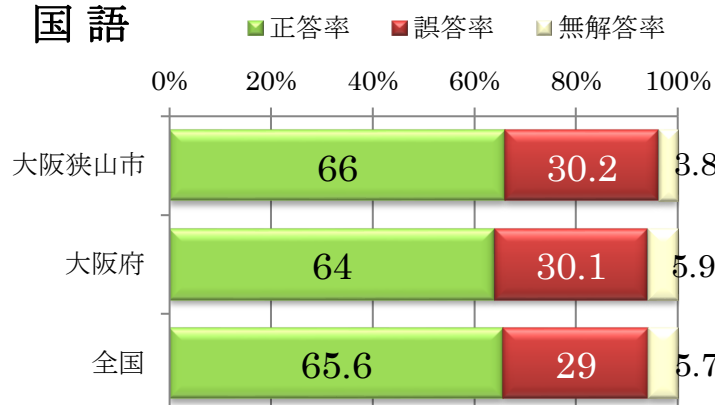
(3) 各学校の分析について

学校ごとに、成果や課題を分析し、教育活動の改善に活かしています。

- これまでの学校における取組みをふり返し、今後の指導改善に活かすよう学校全体で取り組んでいます。
- 成果と課題、今後の取組み方針などについて、各学校と教育委員会が話し合い、共通理解を深めています。

1. 小学校国語

国語



平均正答率が全国平均をやや上回っており、特に「言葉の特徴や使い方に
関する事項」で成果が見られました。一方で、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域は全国平均を下回っており、課題が見られました。今後は、「目的や意図に応じて話したり、書いたりすること」、「根拠を明らかにすること」など、さまざまな条件の下で「話す」「書く」学習活動の効果的な取組みを工夫してまいります。

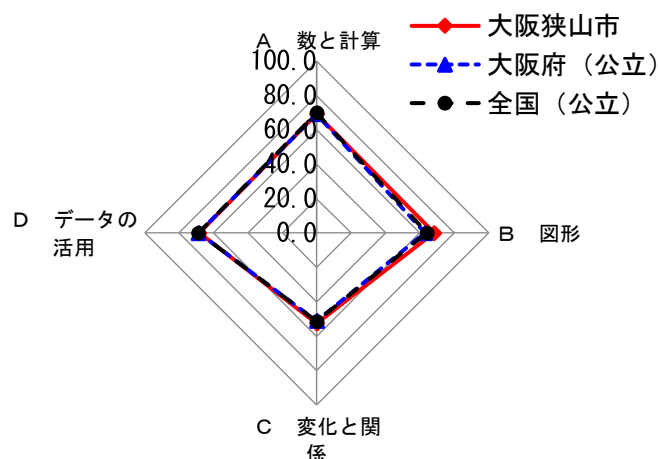
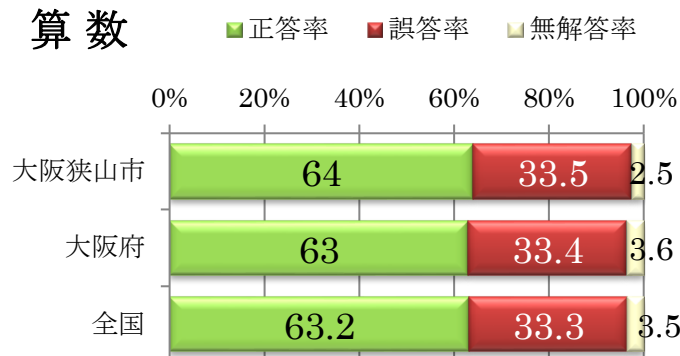
○問題にみえる成果と課題

数字(%)は平均正答率【本市(全国)】

結果と課題	学習指導にあたって
言葉の特徴や使い方に 関する事項(短答式) ○【話し合いの様子の一部】における谷原さんや中村さんの発言の理由として適切なものを選択する。 1二【71.7%(68.8%)】	※言葉には、相手とのつながりをつくる働きがあることを捉える設問です。多くの児童が発言の内容を適切に捉えることができおり、各校の言葉の特徴や使い方に 関する事項にかかる取組みの成果が見られました。
話すこと・聞くこと(記述式) △「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選んで、□でどのように話すかを書く。 1四【43.6%(47.7%)】	※互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる設問です。「問題点についての解決方法を考えて書くこと」ができていない誤答例が多く見られました。自分の考えをまとめ相手に伝えられるよう、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べるなどして考えをまとめる学習活動に取り組んでまいります。
書くこと(選択式) △【文章2】の□の部分、どのようなことに気を付けて書いたのか、適切なものを選択する。 3一【53.8%(59.2%)】	※文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える設問です。文章全体の構成に着目して文章を整えていることを捉えることができている誤答例が多く見られました。読み手に自分の考えを明確に伝えられるよう、自分で書いた文章を読み返し、文や文章を整える学習活動に取り組んでまいります。

2. 小学校算数

算 数



平均正答率が全国平均を上回っており、特に「図形」の分野において成果が見られました。無解答率も全国平均と比較して良好な結果でしたが、「数と計算」「データの活用」の領域の出題では課題が見られました。今後は、児童の理解をさらに深め、定着を進めるために、既習事項の確認を図るとともに、授業における言語活動の充実に努めてまいります。

○問題にみえる成果と課題

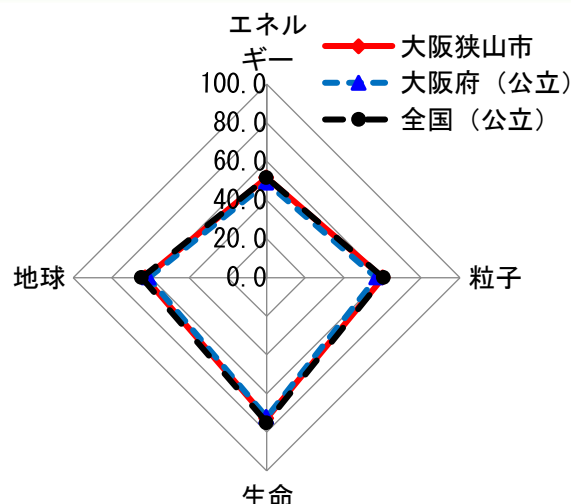
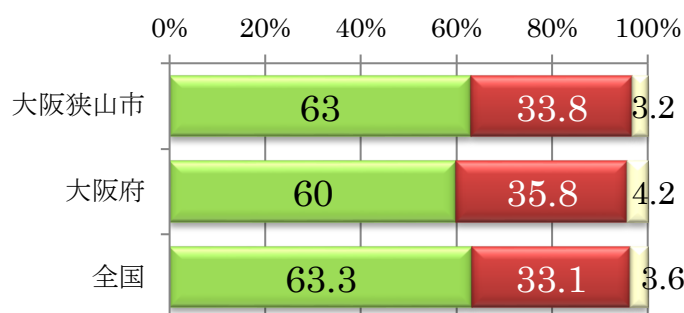
数字(%)は平均正答率【本市(全国)】

結果と課題	学習指導にあたって
図形(記述式) ○示されたプログラムについて、正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き直す。 4(1) 【53.6%(48.8%)】	※正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述できるかを見る問題です。図形の性質を理解するとともに、図形の構成の仕方の考察について、授業で実践している結果だと考えられます。
数と計算(記述式) △カップケーキ7個分の値段を、 $1470 \div 3$ で求めることができるわけを書く。 1(3) 【72.8%(76.0%)】	※示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述できるかを見る問題です。21個=7個×3列と捉えて説明することに課題があります。実生活などの具体的な場面における、除法を活用する問題に継続的に取り組んでまいります。
数と計算・データの活用(短答式) △表のしりとり欄に入る数を求める式と答えを書く。 3(1) 【73.0%(75.3%)】	※表の意味を理解し、全体と部分の関係に着目して、ある項目に当たる数を求めることができるかを見る問題です。希望する遊びの表の意味を理解できない児童がいます。データを正確に読み取り、分析する力がつくように、表やデータを扱った課題に取り組んでまいります。

3. 小学校理科

理科

■ 正答率 ■ 誤答率 ■ 無解答率



平均正答率が全国平均をやや下回っています。領域に関しては、生命領域において課題が見られました。今後は、観察したことや他者と比較しながら、調べたことを説明できるよう授業の中で、対話的時間を増やし、自己解決をしながら、他者と比較する場面を設けてまいります。

○問題にみえる成果と課題

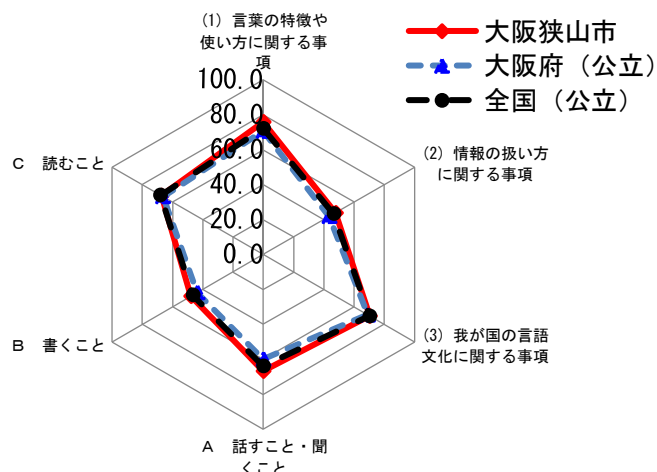
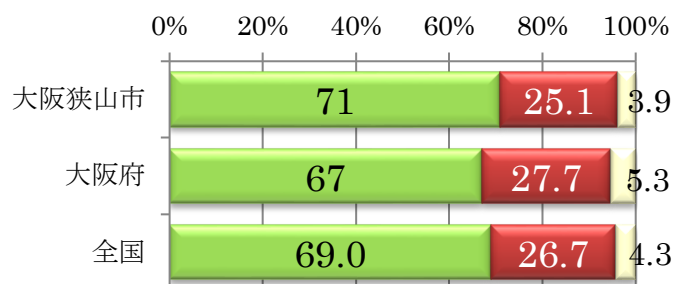
数字(%)は平均正答率【本市(全国)】

結果と課題	学習指導にあたって
粒子(選択式) ○一定量の液体の体積を適切にはかり取る器具の名称を書く。 2(1) 【79.5%(67.8%)】	※メスシリンダーという器具を理解しているかどうかを見る問題です。実験学習をととして、器具の名称を知識として定着していることがわかります。
生命(選択式) △昆虫の体のつくりの特徴を基に、ナナホシテントウが昆虫であることを説明するための視点を選ぶ。 1(3) 【71.3%(73.1%)】	※複数の種類の昆虫の体のつくりを比較しながら、調べ、差異点や共通点を基に、共通した特徴である成虫の頭、胸、腹といった部分に着目して、調べたことを正確に説明できるかを問う問題です。他者の考えを聞き、自分の考えと比較しながら説明する学習活動に取り組んでまいります。
物質・エネルギー(記述式) △鏡ではね返した日光の位置が変化していることを基に継続して同じ条件で実験を行うために、実験の方法を見直し、新たに追加した手順を書く。 3(3) 【67.8%(68.9%)】	※自分で発想した実験の方法と、追加された情報を基に、実験の方法を検討して、改善し自分の考えをもつことができるかどうかを見る問題です。実験の方法を検討して改善するために予想や仮説を立てる学習活動に取り組んでまいります。

4. 中学校国語

国語

■ 正答率 ■ 誤答率 ■ 無解答率



平均正答率が全国平均を上回っており、特に「言葉の特徴や使い方に關する事項」、「話すこと・聞くこと」の領域で成果が見られました。一方で、「読むこと」の領域は全国平均をやや下回っており、課題が見られました。今後は目的に応じて必要な情報に着目しながら内容を解釈する学習活動の効果的な取組みを工夫するとともに、国語科をはじめとする各教科で、生徒の言語活動の充実を図ってまいります。

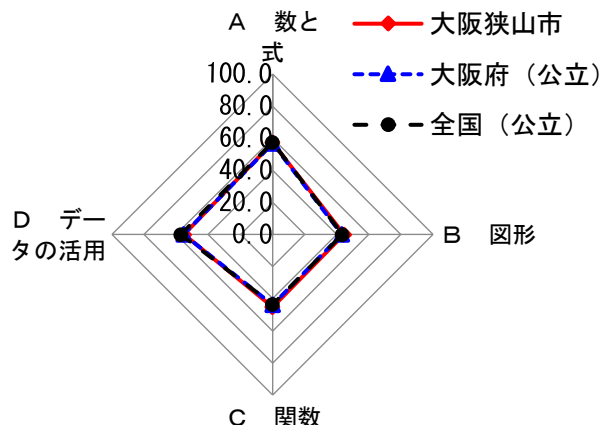
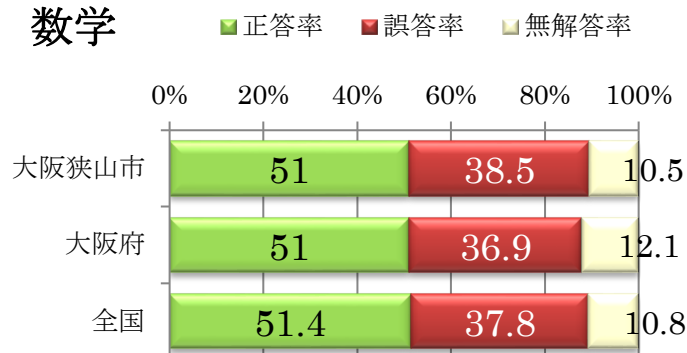
○問題にみえる成果と課題

数字(%)は平均正答率【本市(全国)】

結果と課題	学習指導にあたって
言葉の特徴や使い方に關する事項(短答式) ○「陽炎みたいに揺らめきながら」に使われている表現の技法の名称を書き、同じ表現の技法が使われているものを選択する。 3ー【62.3%(52.5%)】	※表現の技法について問う設問です。多くの生徒が表現技法について理解しており、各校の言葉の特徴や使い方に關する事項にかかる取組みの成果が見られました。
話すこと・聞くこと(選択式) △話の進め方のよさを具体的に説明したものとして適切なものを選択する。 1二【61.9%(65.1%)】	※論理の展開などに注意して聞くことができるかを問う設問です。誤答例の状況から、言葉と言葉の関係を適切に捉えることに課題が見られました。生徒が論理の展開などに注意しながら内容を聞くことができるよう、互いの考えを比較したり、聞き取った内容を評価したりする学習活動に取り組んでまいります。
読むこと(記述式) △「おれ」は何を「なるほど」と思ったのかについて、話の展開を取り上げて書く。 3四【71.4%(73.8%)】	※場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈する設問です。生徒が目的に応じて必要な情報に着目しながら内容を解釈できるよう、要約したり複数の場面や登場人物の心情及び行動を相互に結び付けたりする学習に取り組んでまいります。

5. 中学校数学

数学



平均正答率は全国平均とほぼ同じでした。「図形」「関数」の領域では、全国平均を上回りました。一方、「数と式」「データの活用」の分野では課題が見られました。「データの活用」では、目的に応じて多面的に捉え考察したり、異なる結論を見いだせないか検討したり、生徒が主体的に活動できるような授業に取り組めます。また、言語活動を充実させ、課題解決型の授業を実践できるよう努めてまいります。

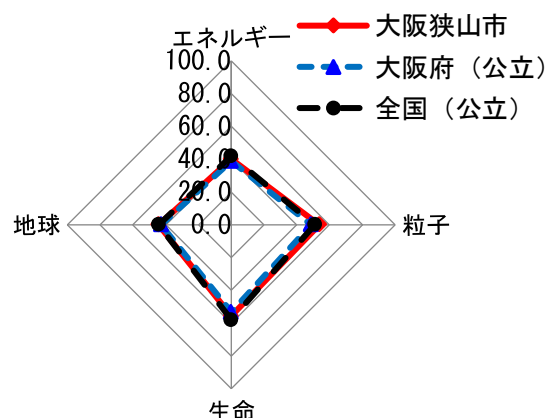
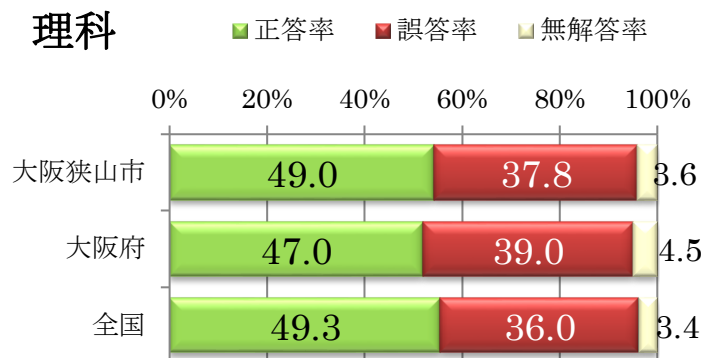
○問題にみえる成果と課題

数字(%)は平均正答率【本市(全国)】

結果と課題	学習指導にあたって
図形(選択式) ○ある予想がいつでも成り立つかどうかを示すことについて、正しく述べたものを選ぶ。 3 【46.2%(44.9%)】	※反例の意味を理解しているかを見る問題です。授業等で図形の問題を考える際に、予想がいつでも成り立つとはいえないことを示す方法(反例)について、考える機会を設定している成果だと思われます。
数と式(記述式) △差が4である2つの偶数の和が、4の倍数になることの説明を完成する。 6(2) 【46.2%(48.7)】	※目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかを見る問題です。根拠を明確にして、筋道を立てて説明する力を育成するため、事柄が成り立つ理由について説明をする機会を設定していきます。
データの活用(選択式) △箱ひげ図の箱が示す区間に含まれているデータの個数と散らばりの程度について、正しく述べたものを選ぶ。 7(2) 【39.6%(44.1%)】	※箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができるかを見る問題です。箱ひげ図から、正確にデータが読み取れていないため、データの特徴について正確に分析する力を身に付けていく必要があります。普段から、データについて、自分はどうのように分析するのか表現できるように、またデータを否定的に見るなど、多角的にデータを見る場面を設定していきます。

6. 中学校理科

理科



平均正答率は全国平均とほぼ同じでしたが、生命の領域で課題が見られました。観察したことを比較し、共通点・相違点を挙げながら、根拠を持って分類、分析することに課題が見られます。授業では、観察・実験したことをまとめるだけでなく、対話的活動を行うことで、他者と比較しながら、自分の考えを深める場面を設けます。

○問題にみえる成果と課題

数字(%)は平均正答率【本市(全国)】

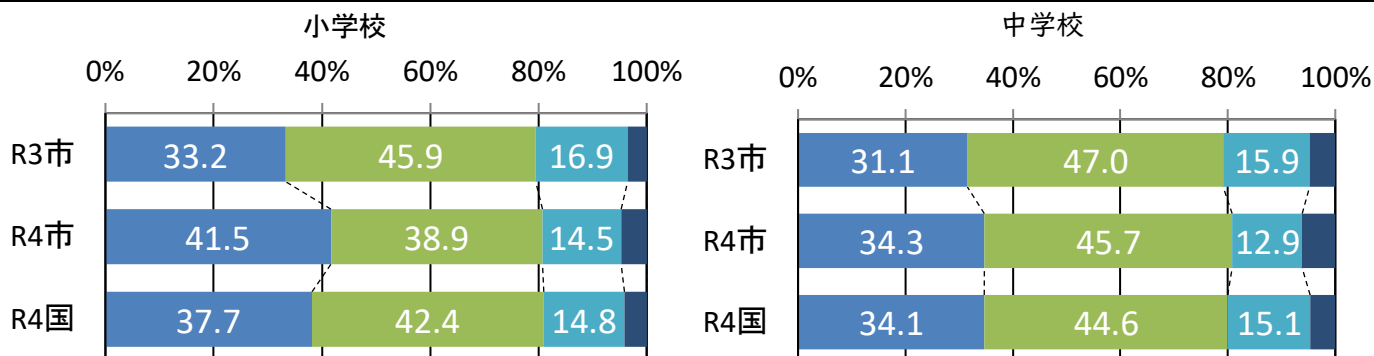
結果と課題	学習指導にあたって
粒子（選択式） ○液体が気体に変化することによって温度が下がる身近な事象を選ぶ。 7(1) 【42.2%(35.9%)】	※水の状態変化における温度変化について科学的に探究する学習場面において、知識及び技能を活用できるかどうかを見る問題です。授業の中でポスター等でまとめ、考察する学習経験が活かされていることが分かります。
エネルギー（選択式） △日常生活や社会の中で物体が静電気を帯びる現象を選ぶ。 1(1) 【35.8%(44.2%)】	※タッチパネルの反応について科学的に探究する学習場面において、静電気に関する知識及び技能を活用できるかどうかを見る問題です。身に付けた知識と日常生活における経験を関連付けるよう、生活の中でどのように活用されているのか振り返る場面を設けてまいります。
生命（記述式） △未知の節足動物が昆虫かどうか根拠を示し、書く。 8(3) 【33.5%(39.2%)】	※未知の節足動物とアリの外部形態を比較して共通点と相違点を捉え、分類の観点や基準を基に分析して解釈できるかどうかを見る問題です。観察記録などに基づいて、共通点や相違点があることを見だし分析・解釈するために、他者の意見を取り入れたり、自分の考え説明したりする場面を設けてまいります。

7. 生活・学習状況にかかる質問紙調査

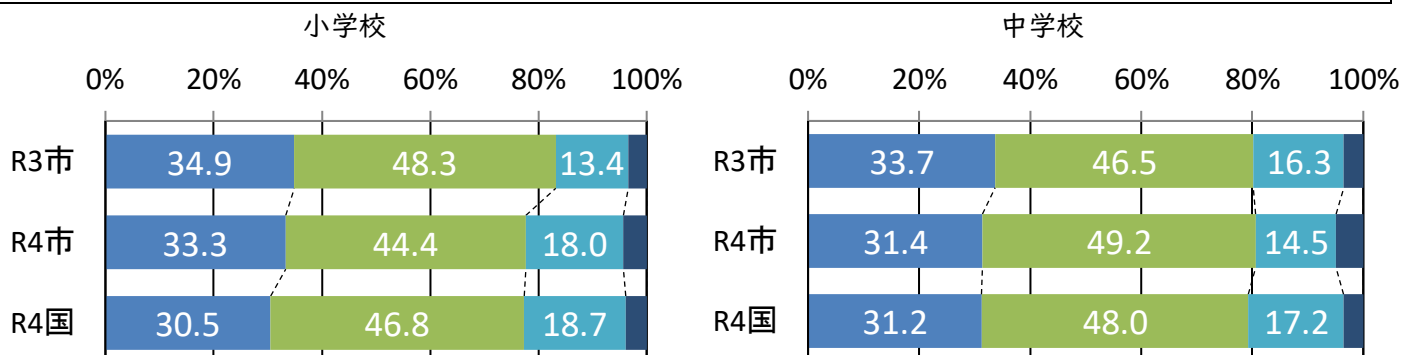
I. 学校の授業について

- 当てはまる
- どちらかといえば、当てはまる
- どちらかといえば、当てはまらない
- 当てはまらない

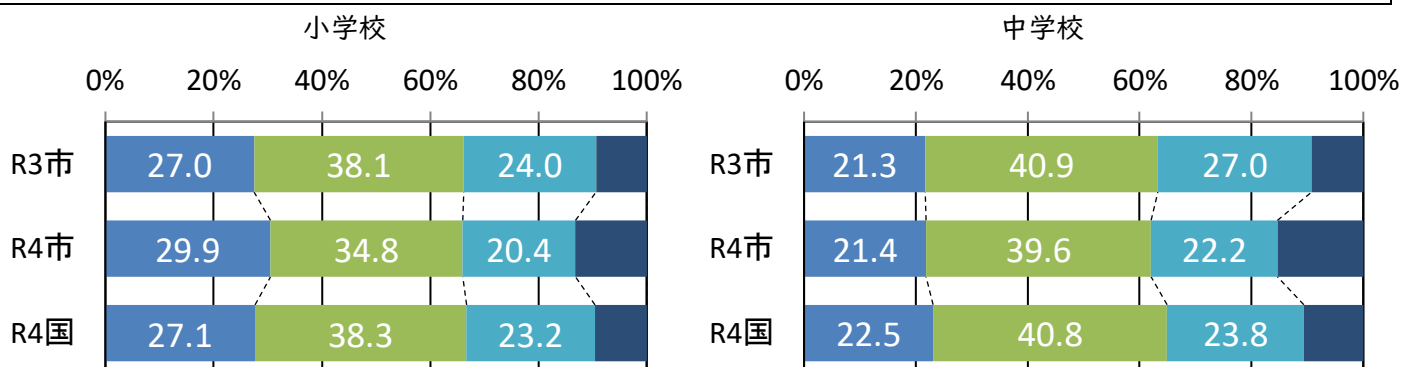
①学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか



②前の学年までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



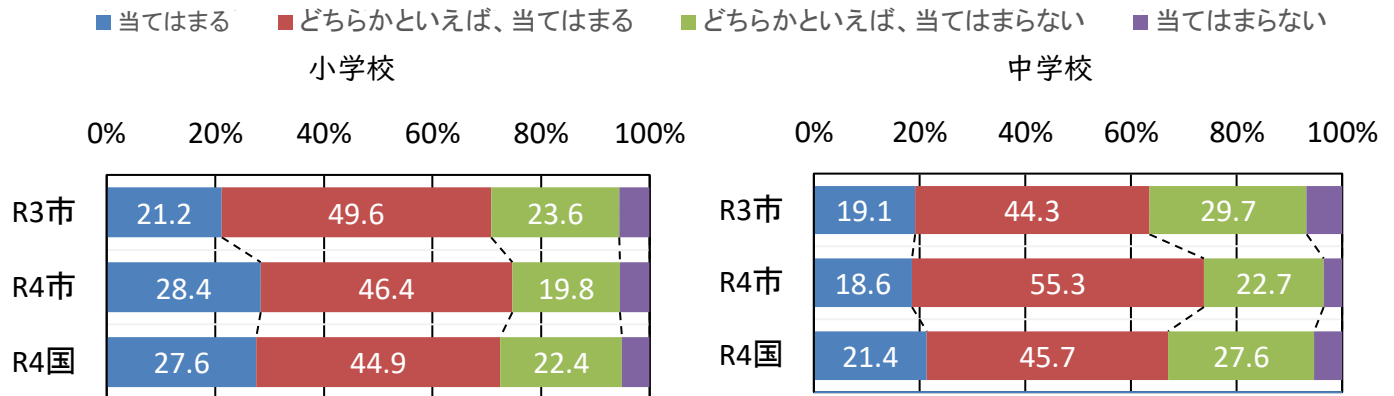
③前の学年までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか



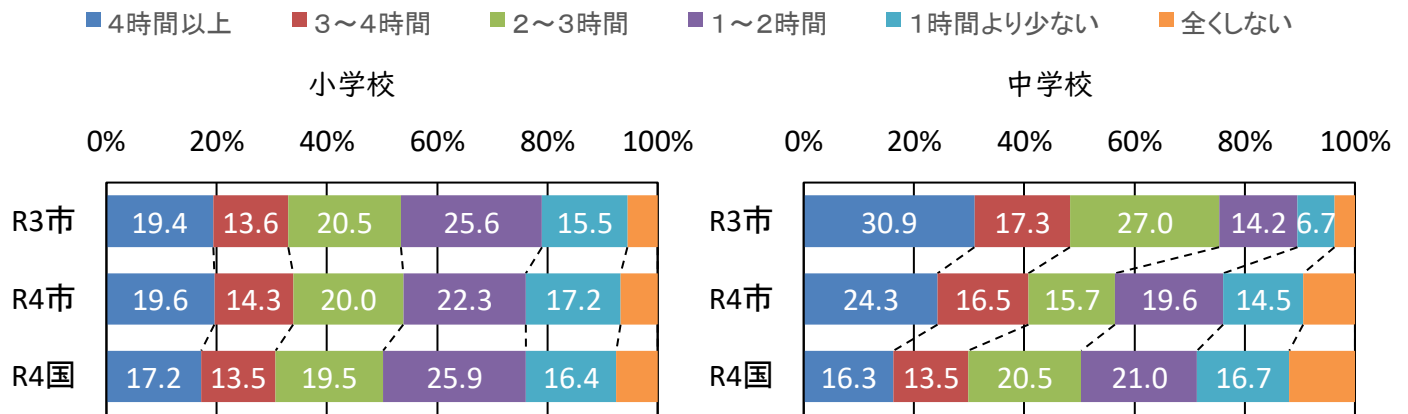
- ・①の質問については、肯定的な回答が、昨年度や全国平均と比較しても良好な状況であり、②の質問についても、全国平均と比較すると良好な状況であることがわかりました。これらのことから、学習指導要領にあります「主体的・対話的で深い学び」の実現が進んでいると考えられます。
- ・③の質問については、肯定的な回答が、昨年度や全国平均と比較しても少なく、課題が見られました。児童生徒が考えを伝え合う力を向上できるよう、他者との意見を比較する授業づくりに、タブレット端末を活用するなど、指導方法の工夫を進めてまいります。

Ⅱ. その他の項目について

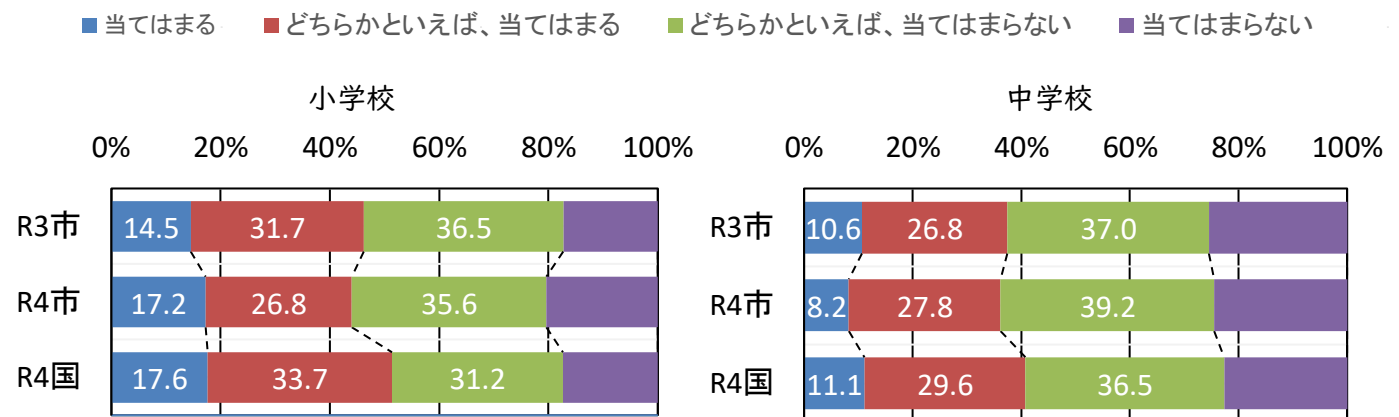
①難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか



②普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか



③地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか



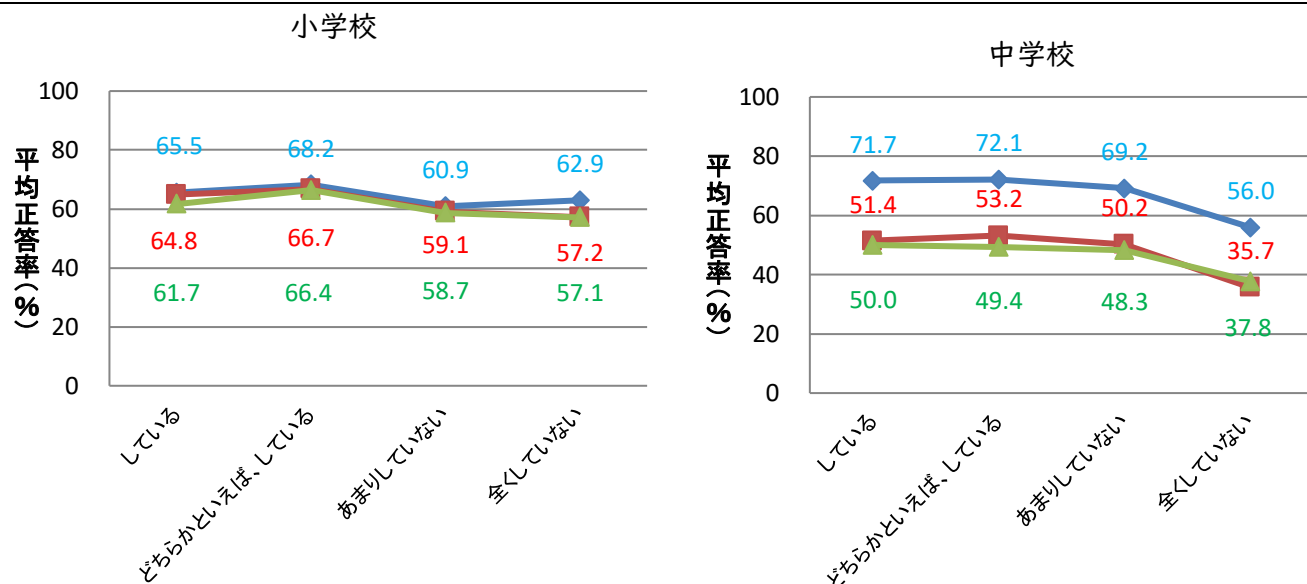
- ・①については、肯定的な回答が、昨年度や全国平均と比較しても、良好な状況であることがわかりました。このことから、集団作りを進めていくことにより、安心できる環境の中で、失敗を恐れず挑戦していると考えられます。
- ・②については、小学校は2時間未満の回答が、昨年度や全国平均と比較しても多く、1日当たりのテレビゲームの時間が長いことがわかりました。また、中学校は昨年度と比較して、短くなっています。これらのことから、今後もスマートフォン等の使い方の学習を進めてまいります。
- ・③については、昨年度や全国平均と比較しても課題が見られました。学校・家庭・地域が一体となって進めるコミュニティ・スクールにより、「ふるさとさやま」を大切に考える学習活動を進めてまいります。

Ⅲ.質問紙調査と教科調査の「クロス集計」の結果について

本市の児童生徒の質問紙調査の回答状況と、国語、算数・数学、理科の平均正答率のクロス集計の結果から、関連が深いと思われる項目を示しました。

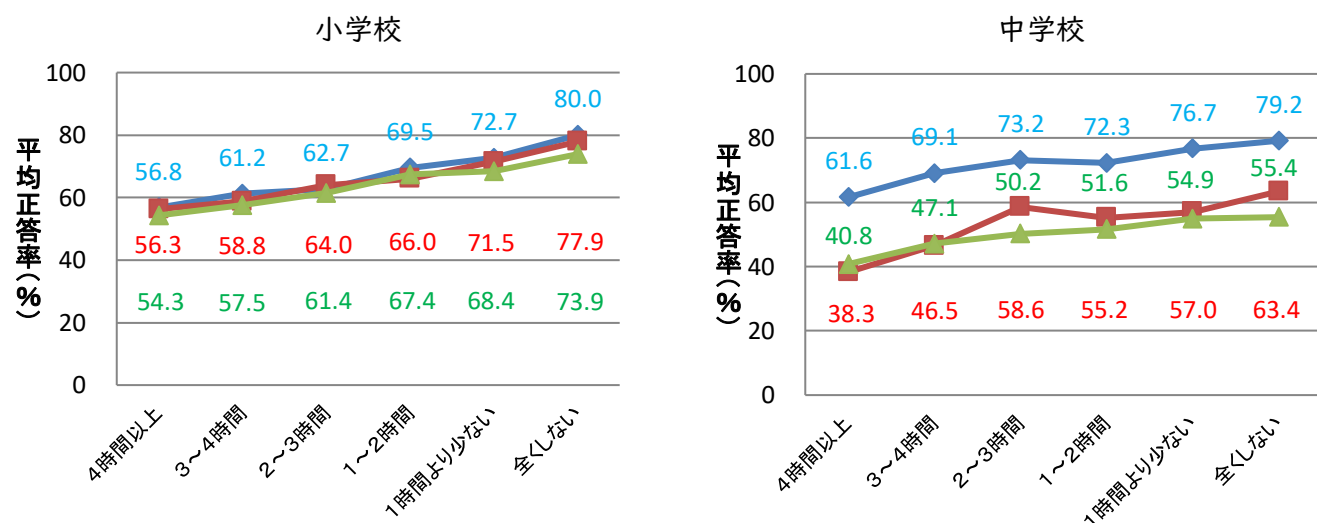


毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



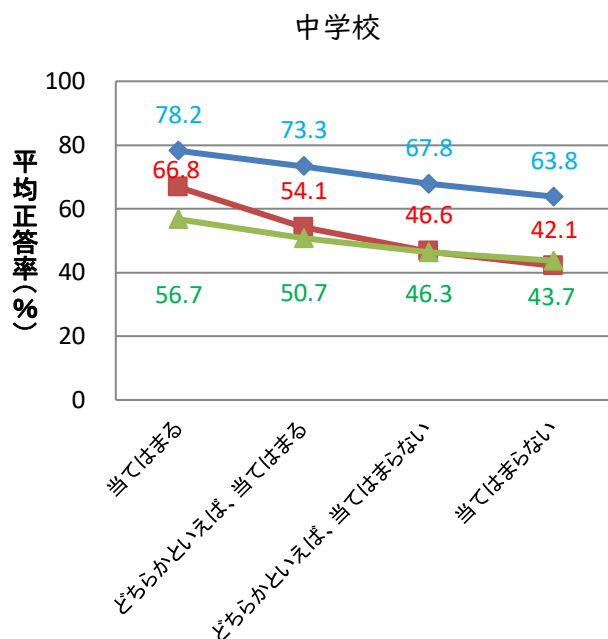
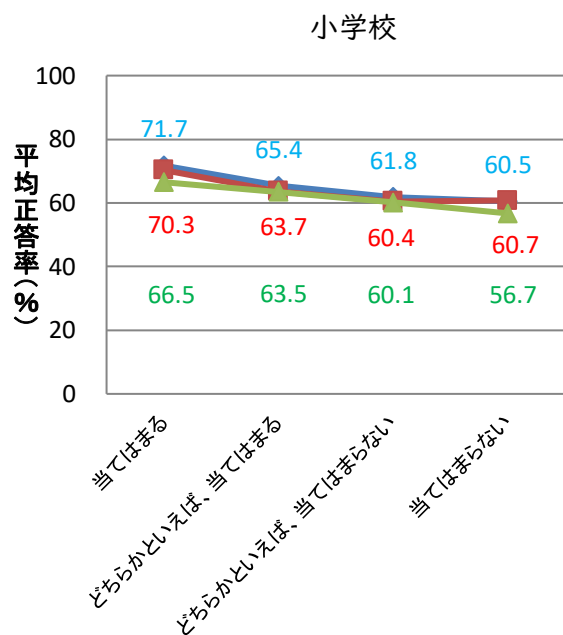
・「している」「どちらかといえば、している」と回答した児童生徒の方が、「あまりしていない」「全くしていない」と回答した児童生徒と比較して、国語、算数・数学、理科の平均正答率が高い傾向が見られました。

普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか



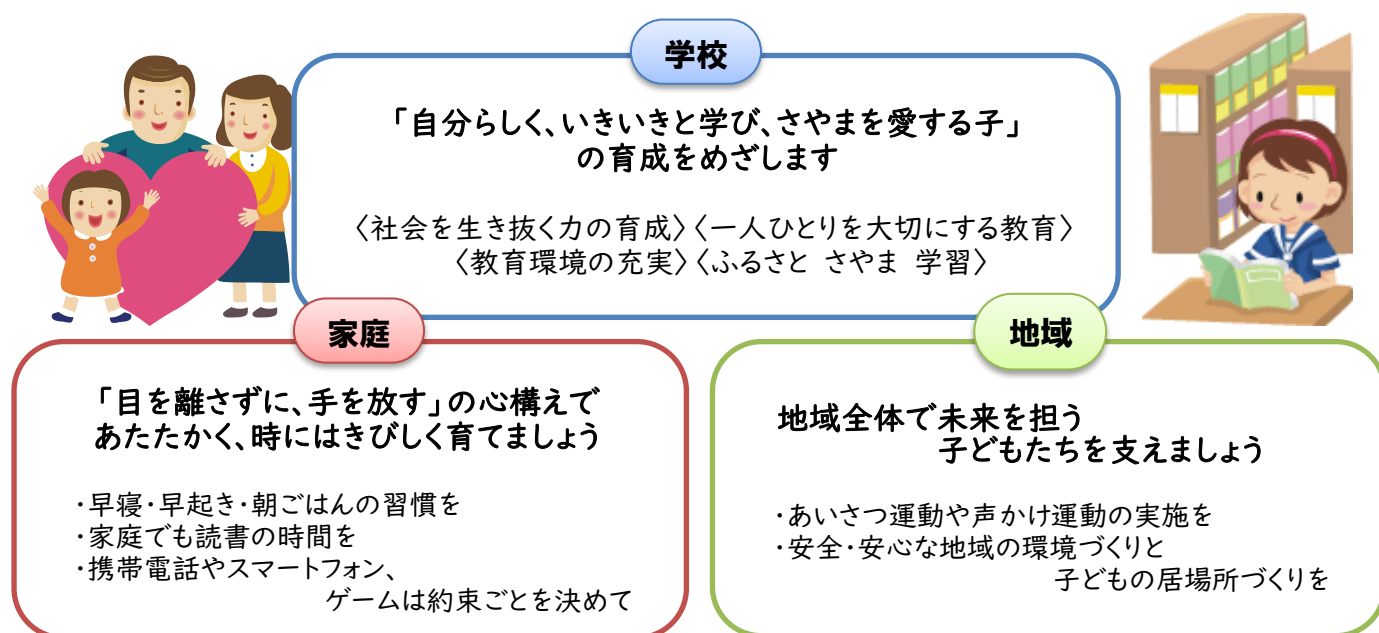
・1日当たりのテレビゲームの時間が少ない児童生徒ほど、国語、算数・数学、理科の平均正答率が高い傾向が見られました。

家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)



・「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の方が、「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」と回答した児童生徒と比較して、国語、算数・数学の平均正答率が高い傾向が見られました。

一人ひとりの子どもたちに、確かな学力を育むためには、学校・家庭・地域の「つながり」が大切です。皆様のご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



令和4年(2022年)8月 大阪狭山市教育委員会